

この「火山防災マップ」は、秋田駒ヶ岳の過去の火山活動や、もし噴火した場合に考えられる火山災害や避難場所を地域のみなさんに知っていただくためのものです。

秋田駒ヶ岳火山防災マップ

万が一の噴火に備えて

A3サイズ
集約版

秋田駒ヶ岳は
活火山です

もし噴火が始ったら…

- 1 正確な情報(気象庁からの「噴火警報」など)を聞く。
- 2 デマやうわさに惑わされないようにする。
- 3 避難する場合は、あわてず落ち着いて行動するよう心がける。

避難する場合は…



- 1 左の絵のような格好が避難に適しています。
- 2 避難の前に戸締まり、電気、ガスの元栓を確認しましょう。
- 3 あわてず落ち着いて速やかに行動しましょう。
- 4 お年寄り、赤ちゃん、身体の不自由な人、外国人など言葉の分らない人の避難を助けましょう。
- 5 市街地では車はつかわず徒歩で移動しましょう。

非常持ち出し品

普段から準備しておき、一年に一回は中身を確認しましょう。

- | | | |
|---------------------------------------|--|---|
| <input type="checkbox"/> ヘルメット(防災ずきん) | <input type="checkbox"/> 着替え(長そで上着、シャツ、ズボン、下着、くつ下など) | <input type="checkbox"/> ゴーグル(火山灰除け) |
| <input type="checkbox"/> マスク | <input type="checkbox"/> 手ぶくろ・軍手 | <input type="checkbox"/> リュックサック |
| <input type="checkbox"/> 毛布・タオル | <input type="checkbox"/> かさ・カップ | <input type="checkbox"/> 非常食(水3ℓ以上、乾パン、もち、缶詰、レトルト食品、アメ、チョコなど) |
| <input type="checkbox"/> 常備くすり、救急箱 | <input type="checkbox"/> 現金・小銭 | <input type="checkbox"/> 預金通帳・印鑑 |
| <input type="checkbox"/> 健康保険証 | <input type="checkbox"/> 携帯電話 | <input type="checkbox"/> ラジオ(予備電池) |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯(予備電池) | <input type="checkbox"/> ろうそく・ライター | |

赤ちゃんがいる場合

ほ乳ビン・ミルク・おむつ

お年寄りがいる場合

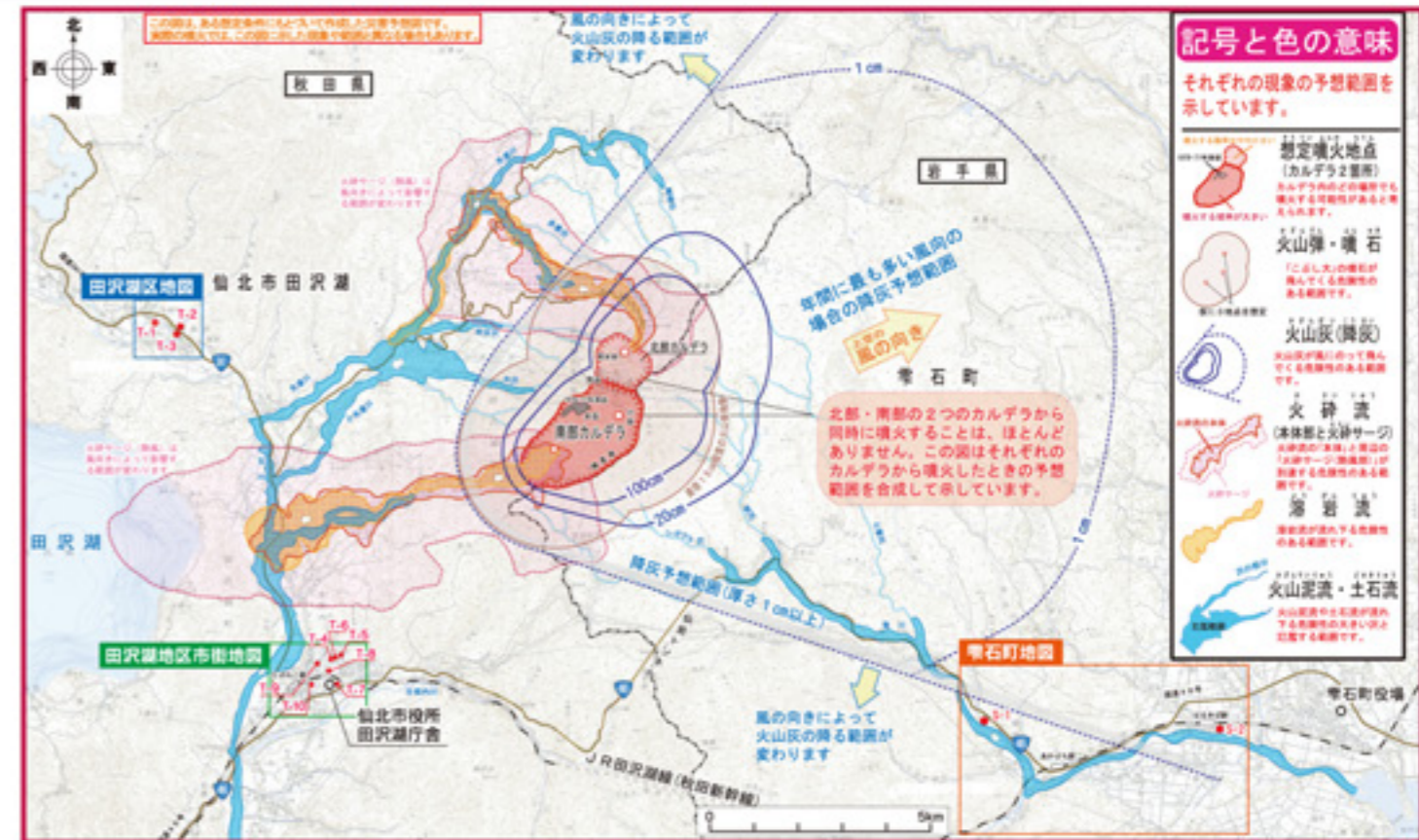
常備薬など

わが家の避難場所

防災メモ欄 ~家族の連絡先などを確認~

名前	電話番号	メモ欄

秋田駒ヶ岳火山防災マップ(発行:平成23年3月) 国土交通省 湯沢河川国道事務所 秋田駒ヶ岳山系砂防出張所 〒014-1201 秋田県仙北市田沢湖生保内字駒ヶ岳2-16(アルパこまくさ内) TEL 0187-46-2681



避難場所位置図

避難先・経路等については、**防災行政無線**等による誘導や指示に従ってください。
お問い合わせ先は 仙北市役所 TEL 0187-43-1111



活火山・秋田駒ヶ岳



秋田駒ヶ岳と周辺の火山群(八幡平一帯)

八幡平一帯には活火山(图中▲)がたくさん分布しており、秋田駒ヶ岳もそのうちのひとつに含まれます。これらの火山地帯は温泉や優れた観光地が多く、一年を通じてたくさんの方が訪れる場所になっています。

火山の恵み

活火山は噴火時に災害をもたらす一方で、静穏時は温泉や美しい景観など、たくさんの恵みを私たちに与えてくれます。秋田駒ヶ岳の周辺にもたくさんの温泉やすばらしい景観があり、山の上には多くの高山植物が私たちを出迎えてくれます。



コマクサ ニッコウキスゲ

秋田駒ヶ岳の活動



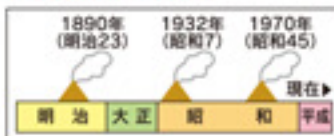
女岳から溶岩を噴き出した噴火



溶岩流の跡

秋田駒ヶ岳は、最近の100年間に3回ほど噴火をしています。最も新しい噴火は昭和45年(1970年)の噴火で、この噴火では女岳から約3ヶ月間にわたって溶岩を噴き出しました。現在は静穏な状態ですが活火山である以上また噴火することも考えられます。

近年の噴火履歴



近年の噴火状況

噴火した年	噴火の内容
1890~91 (明治23~24)年	12月から翌年1月まで噴火(?)。噴動や噴石があったらしいが詳しいことは不明。
1932(昭和7)年	7月21~30日まで南部カルデラで小規模な噴火(水蒸気爆発)。火口列を形成。少量の降灰と泥流あり。樹木の枯死や有害な火山ガスの発生あり。
1970~71 (昭和45~46)年	8月末頃に女岳山頂に噴気孔が形成。9月18日~翌年1月26日まで女岳山頂から噴火。頻りに噴出し溶岩流を少しずつ流出。噴出物総量約170万m ³

秋田駒ヶ岳には「噴火警戒レベル」が適用されています

噴火警戒レベル…火山活動の状況を噴火時などにとるべき防災対応にふまえて5段階に区分したものであり噴火警報及び噴火予報でレベルを気象庁が発表します。

予報警報	対象範囲	レベル	説明	
			火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応
噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5(避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある	危険な居住地域からの避難が必要 過去の事例：有史以降なし
		4(避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)	警戒が必要な居住地域での避難準備が必要 全山入山規制 過去の事例：有史以降なし
火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3(入山規制)	火口付近から居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす噴火の発生、あるいは発生が予想される	住民は通常の生活 状況に応じて災害時要援護者の避難準備等 登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等 過去の事例：1970年女岳からの噴火
	火口周辺	2(火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす噴火の発生、あるいは発生が予測される	住民は通常の生活。 火口周辺への立入規制等。 過去の事例：1932年南部カルデラ内(石ボラ)での水蒸気爆発
噴火予報	火口内等	1(平常)	火山活動は静穏	火山活動は静穏 ●女岳北側で弱い噴気活動が見られるが、南部・北部カルデラに目立った表面現象はない。



秋田駒ヶ岳は、わたしたちの町に温泉や素晴らしい景観など火山の恵みをたくさん与えてくれる大切な山です。しかし、一方では、秋田駒ヶ岳はこれからも噴火をするかもしれない活火山でもあるのです。

1970~71(昭和45~46)年の噴火では、幸いなことに大きな被害はありませんでしたが、今後、もし噴火した場合にそなえて「活火山・秋田駒ヶ岳」のことをよく知っておくことも大切です。

このマップで想定している噴火規模

秋田駒ヶ岳では、過去約2000年間の噴火で溶岩流・火砕流・火山灰や噴石などが発生しています。このマップは、過去約2000年間の最大規模を参考に、今後も起きる可能性がある噴火を想定したものです。火口は「南部カルデラ」と「北部カルデラ」から代表として3地点を想定しましたが、カルデラ内の他の場所に火口ができる可能性もあります。

想定火口位置	北部カルデラ 中央部に1地点 南部カルデラ 「小岳」と「西部」の計2点
想定した現象と噴出量	火山灰: 2,600万m ³ (東京ドーム約21杯分) 溶岩流: (北部)1,400万m ³ (東11杯分) (南部)8,100万m ³ (東81杯分) 火砕流: (北部)470万m ³ (東4杯分) (南部)2,700万m ³ (東27杯分) 噴石距離: 各火口(3地点から)半径2.1km以内

噴火の前ぶれ



振動・空震 山のほうから爆発音が聞こえたり、振動が伝わってガラス窓の振動音が聞こえる。
落石 火山性地震の震動で、不安定だった石がくずれ落ちてくる。
噴気異常 マグマの上昇で、険しい場所から火山ガスがでたり、いままでもよりガスの量が多くなる。



火山性地震 地下のマグマの動きによって、火山や周辺の傾いた場所地震が起きる。
動物の避避行動 山に住む動物が異常を感じて、山から逃げ出してくる。
地割れ・ひび割れ マグマの上昇によって山の割れ目やひび割れが深くなったり、段差ができる。



植物が枯れる マグマの上昇によって、地中から伝わる熱が壊し、植物が枯れる。
温泉やわき水の異常 温泉の温度やわき水の量が急に変化したり、新しい温泉が出現する。
海水・湖水・河川の異常 海水の色や透明度、湖の水質が変化したり、魚が死んだりする。

噴火現象の説明

溶岩流



1986年・伊豆大島

どろどろの溶岩(マグマ)が火口からあふれて流れ出したものです。普通は、速度が遅く、走って逃げることができません。溶岩流の通過した場所は全て焼き尽くされ埋められてしまいます。

噴石・火山弾



2000年・有珠山

噴火により高温の岩石が火口から放出されます。破壊力が大きく火口付近の建物などは容易に破壊されます。時には直径1m以上の岩塊が飛んできるとあるので、噴火時には火口の近くに近寄ると大変危険です。

土石流・火山泥流



1991年・雲仙普賢岳

土石流は、火山灰が斜面に堆積して水が地面にしみ込みにくい時に雨が降った場合、雨水が一気に川に集まり発生します。火山泥流は、火砕流や放出された噴石や火砕流の熱により、斜面の雪が融けて発生します。

火砕流



1991年・雲仙普賢岳

高温の火山灰や岩塊、火山ガスなどが混じり合い斜面を高速(時速数十km)で流れ下ります。高温のガス(火砕サージ)は本体部より遠くまで達し大きな被害をもたらす極めて危険な現象です。

火山灰(降灰)



1991年・雲仙普賢岳

噴火によって火口から放出されます。火山灰は細かいため風に流されて風下側に多く降り積もります。通常は南西風が多いので主に東側に積もると予想されますが、天候や時期によって風向きが異なるため注意が必要です。

その他の現象

下に示すような現象が起きることがありますので注意して下さい。

地震

噴火の前後に大きな地震が起きることもあります。また、地震によって地面が大きく変形したり(地殻変動)することもあります。

火山ガス

火口から有毒な火山ガスが放出されることがあります。低い場所に溜まりやすいので噴火時にはカルデラ内に入ってはいけません。

山体崩壊

極めて稀ですが、地震や噴火が引き金になり山が大きく崩壊することがあります。